

## 教育条件整備研究部会

### I 研究テーマ

「豊かな教育を子どもたちに」 ～ 有効な予算の活用に向けて ～

### II テーマ設定の理由

子どもの学びの保障と学習環境の整備をはかるため、予算の実態を明らかにし、より有効な予算の活用に向けてとりくむ。そのために学習会や各校の実践、調査などから研究を深め、より有効な予算の活用方法を探っていきたい。

### III 研究の経過と内容

#### 1 研究経過

4月10日 役員と研究テーマの決定、具体的な研究内容の検討

5月15日 研究の基調・運営方針・研究計画の決定、春季教研の報告、  
2014年度予算分析

6月17日 予算についての学習会（講師：甲府市教育委員会 学事課3名）  
調査内容の提案・検討

8月 7日 施設見学（校舎新築校・北新小学校）  
2013年度決算書の分析及び執行についての情報交換（全体）

8月20日 2013年度決算書の分析及び執行についての情報交換（小中別）  
調査集計結果と分析

9月 4日 県教研レポートの内容検討・予算要求にむけて

10月 2日 県教研レポートの内容確認

11月 4日 秋季教研の報告・予算要求を終えて  
条件整備だよりの内容検討

1月27日 本年度研究の反省と来年度の課題、次年度の運営について

#### 2 研究内容

##### (1) 2014年度予算の分析

ここ数年、予算要求書を作成する際、市教育委員会からは前年度配当額のマイナス5%、歳出全般の精査と、予算の重点化・効率化を意識した予算編成をするようにとの指示があり、各校とも予算が減額される中、やりくりしに苦慮している現状である。配当額一覧表は、会員校のみの表で市内全学校ではないが、自校及び他校の予算配当状況を知る良い機会であり、分析結果は、予算執行・予算要求に活かした。今年度は、消費税率が8%に増税となったが、費目によっては増税分が配当に反映されず、執行に不安を抱える厳しい結果となった。一律

の配当でなくなって来ている傾向もあるので、予算要求書やヒアリングをさらに工夫して学校の要望を伝えていく必要がある。

#### (2) 2013年度決算書の分析・執行についての情報交換

昨年度の学校予算・決算の概要を各校と情報交換をした。今年度は、全体だけでなく、小・中学校で分かれて情報交換を行い細かい執行内容の交流も図ることができた。決算書を作成することは、各校の予算執行が適切だったかを見直す良い機会となる。更に、決算書の交流を行うことにより、他校の執行の状況や予算執行の工夫等を把握することができ、以後の効率的な予算の執行に役立てることができた。

#### (3) エアコン設置状況調査(継続)

2012年度からのエアコン設置事業が本年度に終了した。各校の最終の設置状況を把握するため、教室ごとの冷暖房機具の設置状況調査を行った。各校の特殊事情の違いにより、会議室や児童会室・教育相談室・スクールカウンセラー室への設置の有無に大きく差が出ていたことが、この調査を行い明らかになった。

#### (4) リースについて

市契約のリース物品の再確認を行った。その中で、本年4月全校に新リース物品として配置された両面印刷機についての使用状況の情報が交流された。使い勝手は良くなったものの、マスター・トナーが高額になり執行に苦慮している様子、苦肉の策として使用制限している状況が明らかとなった。リース物品の納入に当たっては、学校で機種や仕様の希望ができないことや納入業者によってメンテナンス対応に差があるなどの不透明・不公平さも明らかにされた。

今後は、新リースの際には使いやすい機器の導入を、また、消耗品類の単価契約価格の引き下げを市へ働きかけていきたい。

#### (5) プリンター設置状況調査

市内統一校務支援システムの導入により、指導要録・通信表・出席簿などパソコンで処理するものが増え、プリントアウトする時期も時間帯も集中している。プリンターの設置現状を知り、予算要求活動に活かすため、パソコン室・財務会計以外のプリンターについて昨年同様に調査した。学校独自で予算要求する中、一般備品としてプリンターを購入しているため、学校間で設置状況にかなりばらつきがある。同時に、高額なトナーの使用にどのような工夫をしているのかも情報交換を行い、予算執行の参考としあうこともできた。学校で教職員が働く環境として、どの程度、標準的にプリンターが必要なのか検討していく必要がある。

#### (6) 事務機器設置状況調査

紙折機・裁断機・シュレッダー・電動穴あけ機・電動ホチキスの各校の保有状況について、メーカー名・品番を挙げる形で調査を行った。メーカー品番までの保有状況がわかったので、他校と比較する中で、予算要求していく時の備品計画作成に活かした資料となった。

#### (7) 予算についての学習会

市教育委員会学事課より3名の方を講師に迎え、予算についての学習会を行った。

予算についての質問・要望について回答をいただき、市全体の予算状況と教育費について学習した。市教委で今後計画している各種整備計画（大型備品整備・児童生徒用机イスの新JIS規格への移行・教職員1人1台PCのリース化など）や本年度新規事業内容から、細かい執行に至るまで情報交流ができ、有意義な場となった。

#### (8) 教育条件整備だよりの発行

昨年に続き、市内全校に「教育条件整備だより」を発行する。研究内容を広く発信することで興味を持っていただき、予算に関心を抱き、更に他職種から意見をいただける場を作りたい。

### 3 まとめと今後の課題

本研究会では、学校予算の増額と保護者負担の軽減を図るため予算分析を行い、予算要求につなげるように継続して研究している。今年度も、配当予算について決算書を分析し、エアコン設置状況・リース物品・プリンター設置状況・事務機器調査などを行ったが、今後はこの調査結果をふまえて予算を有効に活用していく手立てを考えていきたい。また、統一様式での予算要求書提出、全校ヒアリング実施、校内での提案資料の共通化は定着している状況であるが、ここ数年は市の財政も厳しく、原則として対前年度比マイナス5%の予算要求書作成を迫られている。今年度の8%増税にとどまらず、10%への増税も迫っている状況下で、予算要求書をどのように編成していくか、配当された予算をいかに効率的に執行するかが大きな課題となってきた。

研究会に参加して、「予算を学ぶ」ということが大切である。例年、研究会の中で市教育委員会学事課の担当者を講師に招き「予算についての学習会」を行っており、予算要求に向けて調査・分析だけでなく、予算についての今後の見通し等を把握する上で、貴重な情報交換の場となっている。また、決算書をもとにした各校の執行上の工夫などの情報交換も重要な内容となってきた。

一人でも多くの事務職員の参加を期待し、たくさんの情報の中から有効な予算の活用に向けての学習をすすめ、情報共有の機会としていきたい。また、学校予算全体の研究をし、さらに学習を深め共通理解を活かした予算要求に結びつけることができるよう、事務職員以外の立場からの情報も聞く機会が持てるよう会員の増員を働きかけることも今後の課題である。